

2019シーズンのベガルタ仙台ユースは、志岐友輔監督、安川洋介コーチが18シーズンより引き続き指導を行い、新たに主にセカンドチームを指導する細瀬隼コーチ（ベガルタ仙台ユース出身でベガルタ仙台スクールコーチ、サンフレッチェ広島アカデミーコーチを歴任）を加え、全国大会での躍進、プロ選手の育成を目指し、1年間戦った。プリンスリーグ東北では激しいプレオフ進出争いを繰り広げ、12勝2分け4敗勝点38の3位で終了し、2年連続5回目のプレミアリーグプレオフ出場を果たした。

夏の日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会ではグループステージ初戦のガイナレ鳥取U-18戦でFW清水一雅（3年）がハットトリックを達成し、3-1で勝利。2戦目の大分トリニータU-18戦では前半2失点を喫したが、後半粘りを見せて追いつき2-2の引き分け。最終戦の東京ヴェルディユース戦ではFW吉田騎（2年）のゴールで先制。その後失点したが、そのまま引き分けならば4年ぶりのノックアウトステージ進出という状況だった。しかしアディショナルタイムで失点し、1-2で敗戦。あと一歩だったが、グループステージ敗退となった。

秋のJユースカップでは、1回戦松本山雅FC U-18戦が各地で甚大な被害を与えた台風19号の影響で日程変更になり、厳しい移動環境の中戦ったが、0-2で敗れた。

シーズン最後の公式戦となったプレミアリーグプレオフでは、1回戦阪南大高戦が後半終了間際のMF工藤真人（3年）のゴールで1-0で勝利。2回戦サガン鳥栖U-18戦も工藤のゴールで先制し、試合終盤まで1-0。悲願のプレミアリーグ昇格達成かと思われたが、トップチームでも多くの試合に出場していた相手MF松岡大起（3年）にアディショナルタイムにゴールを許し、延長戦へ。延長戦でも失点を喫し、必死の反撃を繰り広げたが1-2での敗戦となった。非常に悔しい結果となったが、DF佐藤潤（3年）やDF高橋拓（3年）

# ベガルタ仙台 アカデミー 総括

VEGALTA SENDAI ACADEMY 2019 SEASON REPORT

ベガルタ仙台の将来を担うアカデミーの選手たち。  
それぞれのカテゴリーの2019年の戦いの記録を  
試合結果とともにまとめる。



を中心とする守備組織は対人守備や競り合いの強さを見せ、戦う姿勢を最後まで見せ続けた。悲願達成はならなかったが、粘り強さや戦う姿勢といった部分は今後のベガルタ仙台アカデミーが進む方向性として示せたと言えるだろう。

19シーズンは4年ぶりにトップ昇格選手が誕生した。GK小畑裕馬（3年）がトップ昇格を果たした。シュートストップが確実で、キックの精度も高い総合的な技術の高いGKでU-18日本代表でも活躍した。トップチームでの公式戦出場目指して頑張つてほしい。また、MF鈴木史哉（2年）がルヴァンカップ出場を果たし、U-17日本代表として南米遠征を経験した。右サイドバック、右サイドハーフ両方をこなせて、活動量が豊富で攻撃センスが高い。20シーズンもトップ昇格選手誕生

に期待したい。

ジュニアユースは18シーズンにU-14世代を指導した西洋祐監督が就任。18シーズンU-13コーチだった佐賀洋司コーチがU-14、18シーズンまでベガルタ仙台ジュニア監督を務めていた白山貴俊コーチがU-13の指導を担当した。夏の日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会はノックアウトステージ進出を果たし、ベスト16で大会を終えた。冬の高円宮杯JFA全日本U-15サッカー選手権大会は東北大会に出場し、全国大会代表決定戦まで勝ち上がったが、青森山田中に0-3で敗れ、全国大会出場を逃した。

ジュニアは18シーズンまでU-10コーチを担当した福田直人監督が就任し、有馬彦利コーチがU-10の指導を担当した。5月に行われたJA全農

杯チビリンピック小学生8人制サッカー全国決勝大会は4年ぶり3回目の出場を果たし、全国ベスト4進出という好成績を挙げた。さらに冬の全日本U-12サッカー選手権大会も2年連続10回目の全国大会出場を果たした。1次ラウンドを突破し、ラウンド16では横浜F・マリノスアライマリーに逆転勝利。準々決勝では八尾大正FCに勝利し、チーム立ち上げ時の目標であったクラブ史上初の全国ベスト4進出を達成した。準決勝柏レイソルU-12戦では延長戦の末惜敗したが、選手たちは皆、球際の強さを見せ、最後まで「全力・全員・不屈」というチームのスローガンを完遂。チームはグッドマナー賞も受賞した。

19シーズンより設立されたマイナビユースは小川翔平監督の下、14名でスタート。MF宗形みなみ（1年）や、MF猪瀬結子（1年）が年代表別代表に選出されるなど、設立1年目から成果を挙げた。初の全国大会、日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）では、ノックアウトステージ進出こそならなかったが、下位トーナメントで全勝し、4勝1分け1敗の9位と好成績を挙げた。20年1月3日より行われたJFA全日本U-18女子サッカー選手権大会にも初出場を果たしたが、1回戦で日テレ・メニーナに0-5で敗れた。1年目ということもあり、マイナビジュニアユースの選手も交えての戦いが多かったが、堂々たる戦いぶりだった。

マイナビジュニアユースは新たに佐藤巨監督の下戦った。JFA全日本U-15女子サッカー選手権大会に出場し、1回戦徳島ヴォルティス戦で2-0と勝利し、全国大会初勝利を挙げた。さらに2回戦シガール広島レディースジュニアユース戦で2-0と勝利し、浦和レッズレディースジュニアユース戦で0-1と惜敗したが、クラブ史上初の全国ベスト8進出を達成した。

20シーズンも各カテゴリーの全国大会での躍進と、トップチーム昇格選手の誕生に期待したい。

（文責：小林健志）